

今週の 1 本研究会

有本寛

2009 年 4 月 17 日

1. 概要

- 目的：農業経済学分野において最先端の貢献ができるよう、お手本となる論文をたくさん読んで、目を慣らし、自分もそれを書けるように、論文の書き方、仮説の立て方、仮説検証の方法と戦略、データ、推計方法、リサーチデザイン等を学びとる。また、いろいろな実証の型・パターンを学ぶ。
- 内容：有力誌に掲載されている一定クオリティの論文を解説・批評する。
- 日時：木曜日 15:00～16:00（隔週）
- 場所：農学部 1 号館 1F 農経資料室

2. 報告にあたって

- 報告者は自身の明確な問題意識と選定理由に基づいて、「今週の 1 本」を選び、報告日の 1 週間前にアナウンスすること。
- 論文の選定はとりあえず以下のジャーナルから（特に優れた論文なら他のジャーナルでも可）：
American Economic Review, Econometrica, Journal of Political Economy, Economic Journal, Review of Economic Studies, Journal of European Economic Association, American Journal of Agricultural Economics, Journal of Environmental Economics and Management, Journal of Development Economics, Economic Development and Cultural Change
- 実証でも理論でも可
- 対象分野：開発，農業（食品の安全性等含む），環境；（貿易とマクロはできれば回避）
- 報告者はその論文を査読するつもりで、報告にあたって以下を解説・批評すること（30 分程度）：
 - その論文を選んだ理由：報告者のモチベーション
 - 背景：論文の背景となる事実や動向など
 - モチベーション：なぜその研究が重要なのか、読む価値があるのか、意義
 - 内容の要約：ポイントを絞って
 - 貢献：何が新しい発見なのか、なぜ accept されたのか → 関連研究も読んで独自性を理解する
 - 手法上の特徴：
 - 「持ち帰り」：その論文の何が使えるか
 - 批判：どこに弱点があるのか
 - 拡張性・展望：その研究から、今後どのような発展ができるか
- 報告者は以上をまとめたレフェリーレポート（A4 で両面 2 枚以内）を配布すること
- 上記の解説・批評ポイントを抑えれば、細かい証明等、細部まで完璧に理解しておく必要はない。
- 参加者は、事前に最低限、abstract, introduction, conclusion は目を通しておくこと。
- なるべく欠席しないように！公共財の自発的供給です。